取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

CAMRY HYBRID

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS　目次

1 運転する前に

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

さくいん

外観

ヘッドライト（ハイビーム）P. 171
ワイパー P. 177
車幅灯 P. 171
ムーンルーフ ＊ P. 91
ボンネット P. 253
ドアミラー P. 85
方向指示灯 P. 152
ヘッドライト（ロービーム）P. 171
フロントフォグライト P. 174

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

室内

助手席 SRS エアバッグ P. 103
グローブボックス P. 219
SRS ニーエアバッグ P. 103
運転席 SRS エアバッグ P. 103
シートベルト P. 77
ヘッドレスト P. 75
A
B
C
CTYPIAV214
フロアマット P. 238
フロントシート P. 71
コンソールボックス P. 220
アームレスト P. 235
カップホルダー P. 222
SRS フロントサイドエアバッグ P. 103

A

ムーンルーフスイッチ ＊ P. 91

インテリアライト P. 216
パーソナルライト P. 216

サンバイザー※
P. 226

インナーミラー
P. 83

リヤシートセンターアームレストライト P. 217

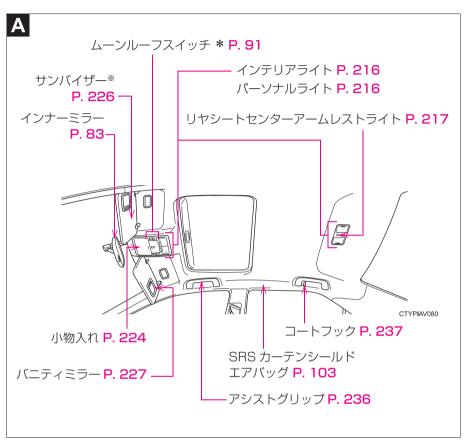
CTYPIAV080

小物入れ P. 224

コートフック P. 237

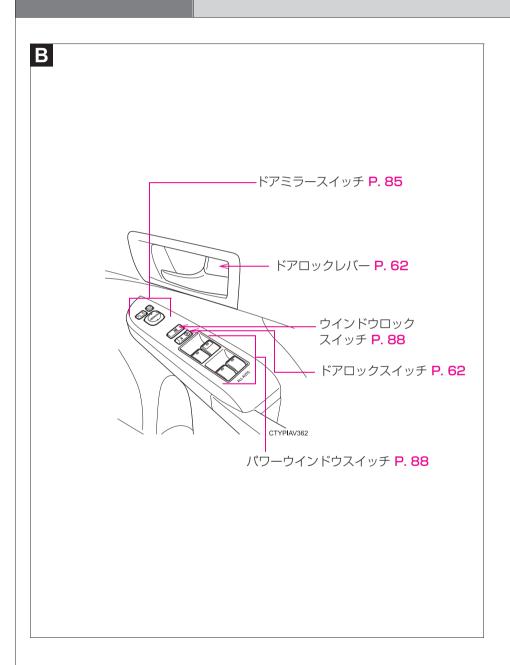
SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 103

バニティミラー P. 227

アシストグリップ P. 236

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P. 125)

CTNPIAG549

B
ドアミラースイッチ P. 85
ドアロックレバー P. 62
ウインドウロック
スイッチ P. 88
ドアロックスイッチ P. 62
CTYPIAV362
パワーウインドウスイッチ P. 88

C

シフトレバー P. 149

カップホルダー P. 222

シフトロック解除ボタン P. 328

CTYPIAV330

AUX 端子 ＊, ※

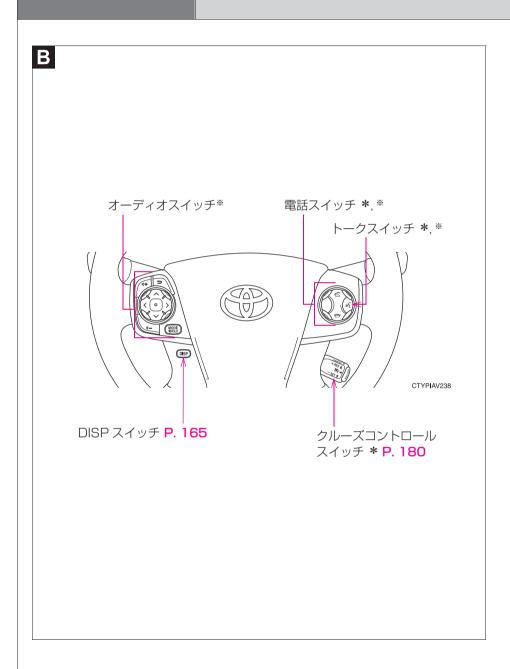
USB 端子 ＊, ※

アクセサリーソケット P. 230

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

インストルメントパネル

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

B
オーディオスイッチ※
電話スイッチ ＊, ※
トークスイッチ ＊, ※
MODE
HOLD
DISP
CANCEL
+ RES
− SET
CTYPIAV238
DISP スイッチ P. 165
クルーズコントロール
スイッチ ＊ P. 180

C

シートヒーター スイッチ ＊ P. 233

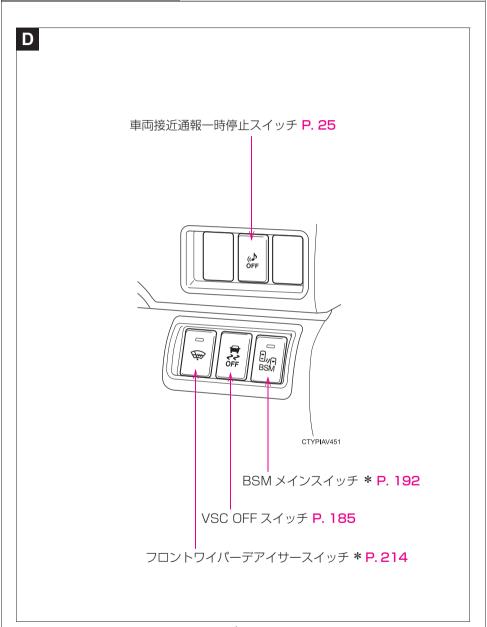
CTYPIAV077

EV ドライブモードスイッチ P. 146

カードホルダー P. 225

ECO MODE スイッチ P. 150

アクセサリーソケット P. 230

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・ エンジン回転数
・ 電気モーター回転数
・ アクセルの操作状況
・ ブレーキの操作状況
・ 車速
・ シフトポジション
・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-BOOK によるデータの取り扱いについて

お客様が G-BOOK をご利用の場合、記録データとその使用について、G-BOOK 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 121)をお読みください。

■駆動用電池について

絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 不法投棄または放置され、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

■駆動用電池の廃棄について

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

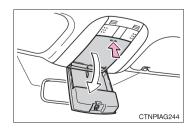
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

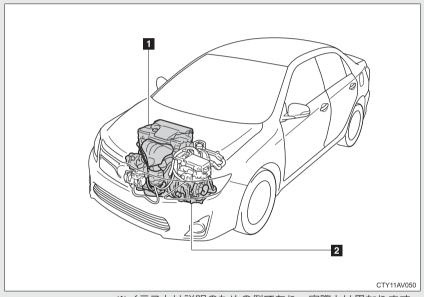
“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に　1

ハイブリッドシステムの特徴

カムリハイブリッドのハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン
2 電気モーター

■ **停車時、発進時、低速走行時**

停車中はガソリンエンジンを停止します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止し、電気モーターを使って走行します。

■ **通常走行時**

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

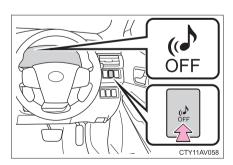
■ **急加速時**

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力をあげ、力強く加速します。

■ **減速時、制動時（回生ブレーキ）**

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25 km/h を超えると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、“パワー” スイッチが ON モードのとき、スイッチを押す

車両接近通報 OFF 表示灯が点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。“パワー”スイッチを ON モードにするごとに、車両接近通報装置は ON になります。

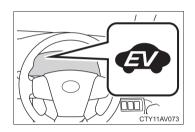
知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電するとともに減速力を得ることができます。

●シフトレバーが D または B でアクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D または B でブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

電気モーターの動力のみで走行しているときは、EV インジケーターが点灯します。

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●駆動用電池充電時

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

●ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に 1 度、約 30 分間または 16 km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

●シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または B で運転してください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 336

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2、3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●トランクを開けたときに聞こえる作動音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるトランスミッション付近からの音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときに聞こえる回生ブレーキの音

●ブレーキペダルを踏んだときに聞こえる、作動音やモーター音

●ガソリンエンジンの始動、停止による振動

●リヤシート左側面にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

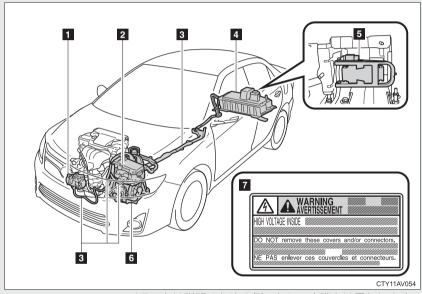
●雨または強風の場合

●車両前方と比較して、車両後方の場合

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理、廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650 V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 エアコンコンプレッサー
2 パワーコントロールユニット・DC/DC コンバーター
3 高電圧ケーブル（オレンジ色）
4 駆動用電池
5 サービスプラグ
6 電気モーター
7 コーションラベル

駆動用電池冷却用吸入口

CTY11AV060

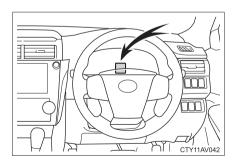
リヤシート横（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因になります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。

CTY11AV042

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→P. 301）

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 299）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で 11.4 L 以上です。車両の傾きによって給油量は変わります。）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

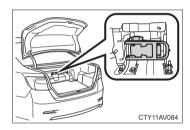
警告

■高電圧、高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧、高温部位に注意してください。

CTY11AV084

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグはトヨタ販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

■事故が発生したときは

次のことをお守りいただかないと、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、シフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

⚠警告

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→P. 292)

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ(エアコンの水以外)が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれた場合に、生命にかかわる感電事故などにつながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

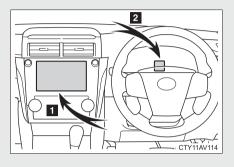
●吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。

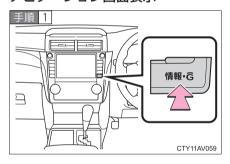
●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エネルギーモニター / 燃費画面 / ESPO 画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチディスプレイやナビゲーション画面＊に表示します。

1 ナビゲーション画面
2 マルチインフォメーションディスプレイ

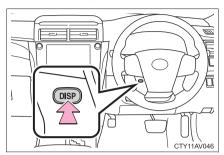
エネルギーモニターの見方

ナビゲーション画面表示

“情報・G”を押し、情報画面を表示させる

情報画面の“エコ情報”にタッチする

燃費画面または ESPO 画面が表示されたときは、“エネルギー”にタッチします。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ表示

“DISP”スイッチを押し、エネルギーモニターを表示させる

くり返しスイッチを押して表示を切りかえます。

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき		

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない ⇔ 多い	少ない ⇔ 多い

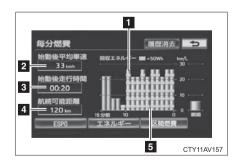
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

毎分燃費の見方（ナビゲーションシステム装着車）

手順 1 “情報・G”を押し、情報画面を表示させる

手順 2 情報画面の“エコ情報”にタッチする

手順 3 エネルギーモニターまたは ESPO 画面が表示されたときは、“燃費”にタッチする

区間燃費が表示されたときは、“毎分燃費”にタッチする

1 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

2 ハイブリッドシステムを始動してからの平均車速

3 ハイブリッドシステムを始動してからの走行時間

4 航続可能距離（→P. 41）

5 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50 Wh です。

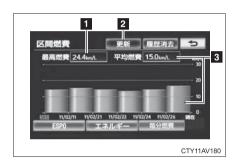
区間燃費の見方（ナビゲーションシステム装着車）

手順 1 “情報・G”を押し、情報画面を表示させる

手順 2 情報画面の“エコ情報”にタッチする

手順 3 エネルギーモニターまたは ESPO 画面が表示されたときは、“燃費”にタッチする

毎分燃費が表示されたときは、“区間燃費”にタッチする

CTY11AV180

1 過去最高燃費

2 更新スイッチ

平均燃費の値とグラフを更新し、新たに平均燃費の記録を開始します。

更新時の平均燃費値が最高燃費を上まわっていた場合、最高燃費が更新されます。

3 平均燃費

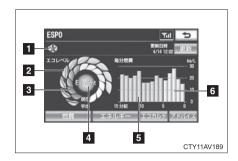
前回更新時から現在までの平均燃費を表示します。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方（ナビゲーションシステム装着車）

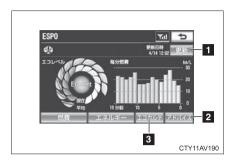
手順 1 “情報・G”を押し、情報画面を表示させる

手順 2 情報画面の“エコ情報”にタッチする

手順 3 エネルギーモニターまたは燃費画面が表示されたときは、“ESPO”にタッチする

1	ステータス表示※	エコ運転の採点結果や走行情報をG-BOOK センターに送信し、計算されたステータスなどを表示します。 ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。
2	エコレベル平均値	エコレベルメーターの平均値を表示します。
3	エコレベルメーター	エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。
4	エコレベルインジケーター	エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。
5	毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）	1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。 今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。
6	毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）	

※ :G-BOOK オンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

■ 更新スイッチ／アドバイススイッチについて

CTY11AV190

1	更新スイッチ※	走行情報などを G-BOOK センターへ送信し、ステータスなどを更新します。
2	アドバイススイッチ	ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果や、エコ運転、環境についての豆知識を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
3	エコカルテスイッチ※	G-BOOK の ESPO メニューが表示され、燃費ランキングなどが確認できます。

※ :G-BOOK オンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

知識

■燃費データをリセットするには

毎分燃費画面で“履歴消去”を選択すると、平均燃費、エネルギー回収量がリセットされ、0 にもどります。
区間燃費画面で“履歴消去”を選択すると、通算燃費と過去最高燃費がリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■G-BOOK センターへ送信する走行情報について

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費等とは一致しないことがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

■ エコドライブモードの利用

(→P. 150)

■ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より燃費効率のよい走行が可能です。(→P. 158)

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ **タイヤ空気圧の点検**

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ **荷物**

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

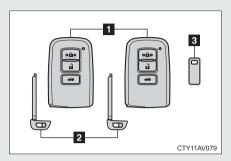
■ **走行前の暖機運転**

ガソリンエンジンが冷えている時は、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

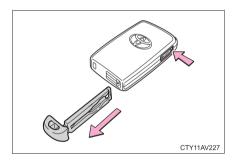
CTY11AV079

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 47）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 60）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

CTY11AV227

解除ボタンを押してメカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 330）

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてグローブボックスを施錠します。(→P. 219)
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 329)

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

⚠注意

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは10 cm以上離して携帯してください。10 cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

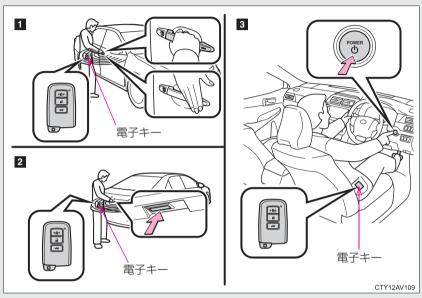
■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

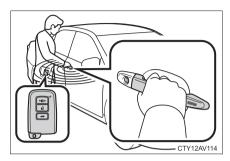
■キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム

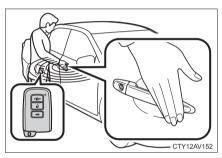
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアを解錠・施錠する　(→P. 48)
2 トランクを解錠する　(→P. 48)
3 ハイブリッドシステムを始動する　(→P. 138)

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

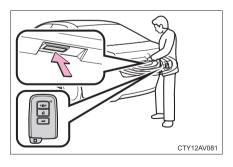
CTY12AV114

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

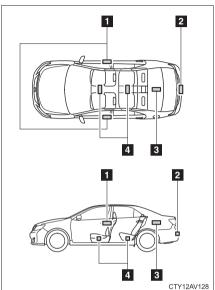
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

CTY12AV152

ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

トランクの解錠

CTY12AV081

トランクオープンスイッチを押して解錠する

アンテナの位置と作動範囲

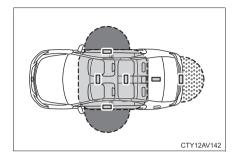
■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 トランク外アンテナ

3 トランク内アンテナ

4 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

CTY12AV142

：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

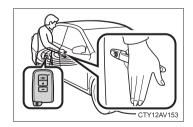
知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。

■施錠できないときは

CTY12AV153

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 301)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる
車内から“ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした(“パワー”スイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“パワー”スイッチをOFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。(セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。)

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

手順 1 “パワー”スイッチを OFF にする

手順 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに、 と同時に、 、 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと、5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピッピッピッ”（3 回） 車内：“ピッ”（1 回）
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピッピッ”（2 回） 車内：“ピッ”（1 回）

■節電機能

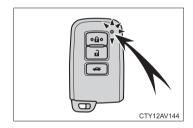
長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した。
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの（施錠スイッチ）を押しながら、（解錠スイッチ）を2回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 330）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・ＣＤ や ＤＶＤ などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡ など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・エアコンの吹き出し口付近・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット・またはエアコンの吹き出し口付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

・電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P. 53）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

・電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P. 53）

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（→P. 353）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 330

●ハイブリッドシステムの始動：→P. 331

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 309）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 281

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 60, 330)

●ハイブリッドシステムの始動・"パワー"スイッチのモード切りかえ：→P. 331

●ハイブリッドシステムの停止：→P. 332

■販売店で設定可能な機能

●スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

●スマートエントリー&スタートシステムによって解錠されるドアの設定を変更できます。

●作動合図ブザーの音量を調整できます。

(カスタマイズ一覧 →P. 353)

警告

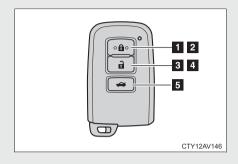
■電波がおよぼす影響についての警告

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 49）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドアを施錠する

2 ドアガラスとムーンルーフを閉める（押し続ける）*

3 全ドアを解錠する

4 ドアガラスとムーンルーフを開く（押し続ける）*

5 トランクを解錠する（押し続ける）

*：トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 51

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 54

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠・解錠 →P. 330

■電池の消耗について

→P. 58

■電池が切れたときは

→P. 281

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 353）

ドア

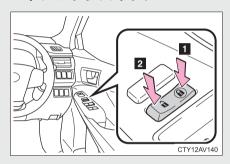
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

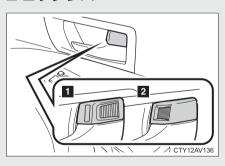
→P. 47

■ ワイヤレス機能

→P. 60

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー

1 ドアを解錠する

2 ドアを施錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“パワー”スイッチがアクセサリーまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

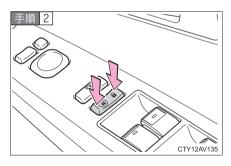
オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“パワー”スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた（ナビゲーションシステム非装着車）

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“パワー”スイッチを ON にする（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

シフトレバーを P または N に入れ、ドアロックスイッチの（施錠）または（解錠）を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	
シフト連動オートアンロック		
車速感応オートロック	N	
運転席ドア連動オートアンロック		

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 330)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは

ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
(→P. 60, 330)

■販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 353)

警告

■**事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

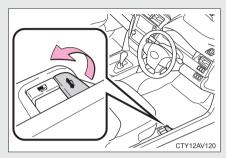
- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■**ドアを開閉するときは**

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

レバーを引き上げて、トランクのロックを解錠する

■ 車外からトランクを開けるには

スマートエントリー&スタートシステム

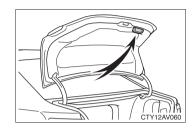
→P. 47

ワイヤレス機能

→P. 60

知識

■ トランクグリップ

CTY12AV060

トランクを閉めるときにお使いください。

引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はスマートエントリー&スタートシステム機能で開けることができます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

警告

■走行中の警告

- 走行中はトランクを閉じてください。
  開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- ●トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

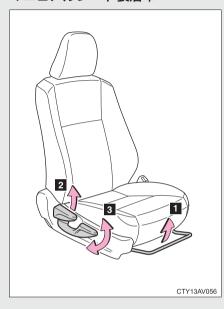
CTY12AV129

- ●半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

CTY12AV130

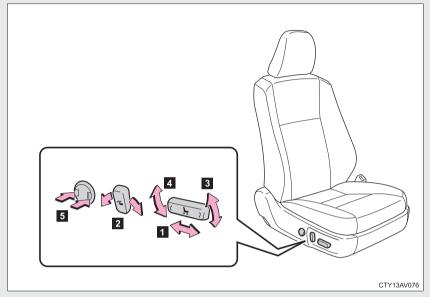
- ●トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- ●トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

フロントシート

マニュアルシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

パワーシート装着車

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）
4 シート全体の上下調整（運転席のみ）
5 腰部硬さ調整（運転席のみ）

警告

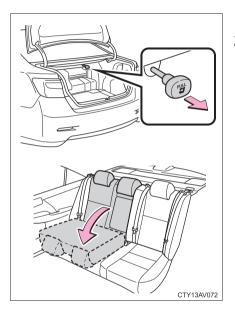
■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

トランク内のレバーを引き、背もたれを前方に倒す

警告

■**背もたれを前倒しするときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

●倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない

●お子さまがトランクに入らないよう注意する

■**背もたれをもとの位置にもどすときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートの間や、背もたれの後ろにシートベルトを挟みこまないようにする

●シートベルトがガイドからはずれた場合は、シートベルトをガイドに通す(→P. 80)

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトを挟み込まないようにする

●シートベルトがガイドに通っていることを確認する

ヘッドレスト

上下調整 *

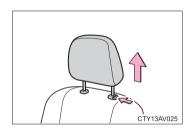
1 上げる

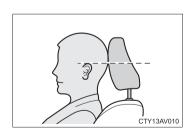
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

*：リヤ中央席を除く

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは（リヤ中央席を除く）

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて（リヤ中央席を除く）

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

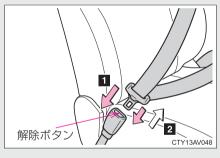
CTY13AV011

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

CTY13AV048

1. ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
2. ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

CTY13AV013

1. 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
2. アジャスターを上げる

   “カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

CTY13AV059

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

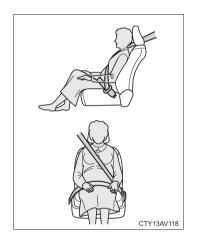
前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

CTY13AV118

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 77)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

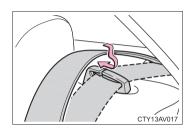
■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 112)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 77)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■リヤ席シートベルトについて

シートベルトがガイドからはずれた場合には、ガイドに通してから使用してください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイドに通っていることを確認する

警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

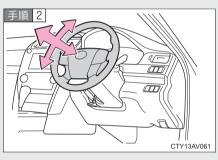
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

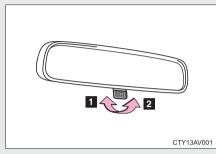
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。(手動防眩タイプ装着車)

1 通常使用時

2 防眩時

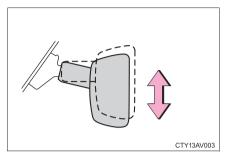
自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。(自動防眩タイプ装着車)

自動モードの切りかえ

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

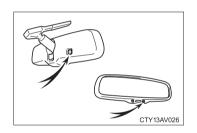
“パワー” スイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた

CTY13AV003

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

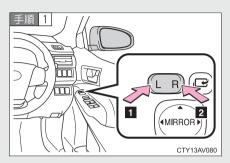
CTY13AV026

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

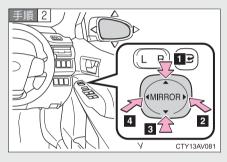
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

スイッチを押して調整するミラーを選ぶ

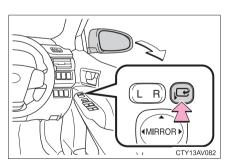
1 左

2 右

スイッチを押してミラーの鏡面を調整する

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、元の位置にもどります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は除々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 244）を行ってください。

■ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 213）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

■**レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

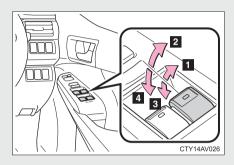
親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
  鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

パワーウインドウ

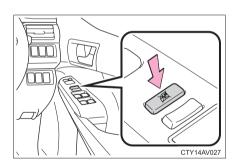
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かすことができます。

CTY14AV026

1 閉める
2 自動全開※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

CTY14AV027

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“パワー”スイッチを ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

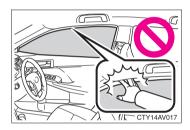
ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反動して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 353)

⚠ 警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

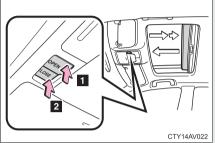
■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ＊

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ / ダウンすることができます。

■ 開閉

CTY14AV022

1 ムーンルーフを開く※

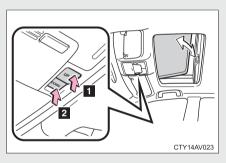
全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)

全開にしたいときはスイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン

CTY14AV023

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の開閉作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあと約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します※2。その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し※2、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

“パワー”スイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 353)

⚠ 警告

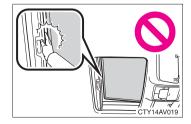
■ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

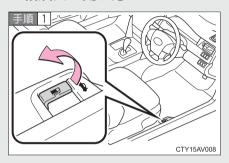
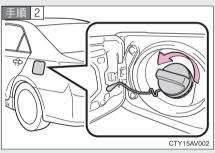
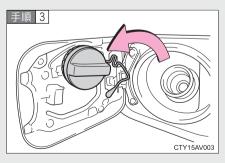
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

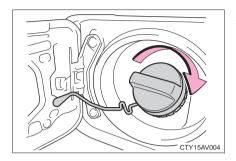
給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“パワー”スイッチを OFF にして、ドアとドアガラスを閉めてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

警告

■**給油について**

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、"シュー"という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■**給油時の注意**

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■給油するときは

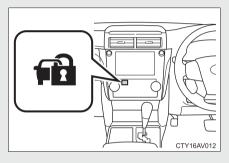
指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→P. 54)

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 71）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 71）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 71）

4 SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 82）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 75）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 77）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

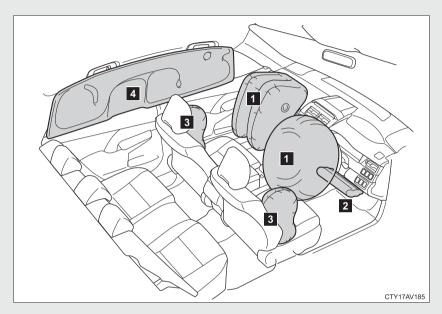
警告

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- SRS　エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

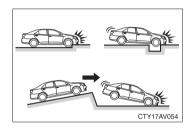
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

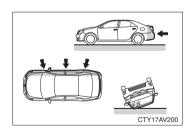
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

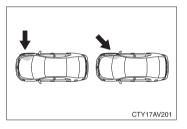
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

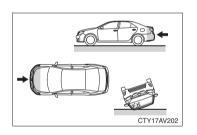
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

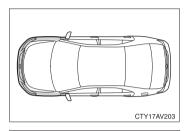
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃

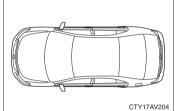
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- ●前方からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

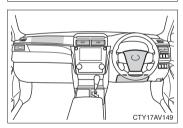
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

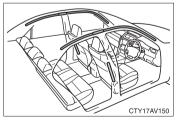
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

CTY17AV203

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTY17AV204

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTY17AV149

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTY17AV150

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているフロントシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 121)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

■SRS エアバッグについて

CTY17AV153

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

CTY17AV154

●助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

CTY17AV155

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

CTY17AV146

●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・リアシートサイドガーニッシュ・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により以下の5種類に分類されます。

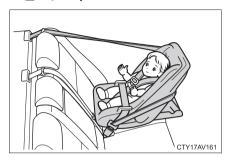
グループ0：10 kgまで
グループ0^+：13 kgまで
グループⅠ：9 ～ 18 kg
グループⅡ：15 ～ 25 kg
グループⅢ：22 ～ 36 kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10 kg まで）	×	U	U
0^{+}（13 kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18 kg）	前向き UF	U	U
	後ろ向き ×	U	U
Ⅱ（15 ～ 25 kg）	UF	U	U
Ⅲ（22 ～ 36 kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10 kg まで）	E	ISO/R1	IL1, IL2
0^{+}（13 kg まで）	E	ISO/R1	IL1, IL2
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
Ⅰ（9 ～ 18 kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL2
	B1	ISO/F2X	IUF, IL2
	A	ISO/F3	IUF, IL2
Ⅱ（15 ～ 25 kg）		(1)	×
Ⅲ（22 ～ 36 kg）		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1)：サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISOFIX対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10 kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+（13 kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I（9 ～ 18 kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 114)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 115)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

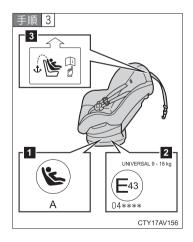
(例 1):体重が 12 kg の場合、質量グループは「0^+」になります。
(例 2):体重が 15 kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

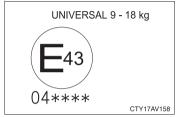
手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0^+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 116)で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク/ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する。

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 121）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●シートをいちばんうしろに下げる

●背もたれを直立状態にする

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

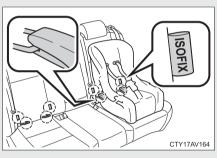
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

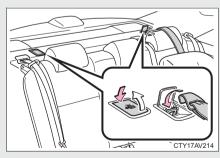
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

CTY17AV165

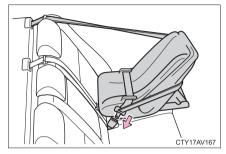
シートベルトによる取り付け
(→P. 122)

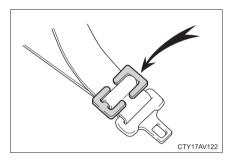
CTY17AV164

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー　(→P. 122)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)

CTY17AV214

トップテザーアンカー
(→P. 122)

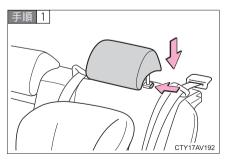
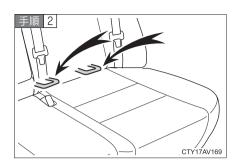
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイトリムに装備されています。

シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

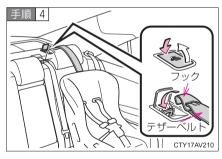
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

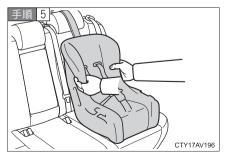
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストを下げる

固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

⚠警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

CTY17AV173

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

CTY17AV343

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

CTY17AV174

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P. 138

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 149）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 153）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P. 149）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 153）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 149）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 “パワー”スイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 42 の 「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■マルチインフォメーションディスプレイに “駆動力制限中” が表示されたときは

駆動力を制限しております。これは故障ではありません。

⚠ 警告

■発進するときは

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
  - ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
  - ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
  - ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

警告

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをＰに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをＲに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーをＤに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをＮにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 343を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 149）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**停車するときは**

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
  ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

注意

■運転中は

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 315 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

⚠注意

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン･ハイブリッド用トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

手順 4

“パワー”スイッチを押す

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“パワー”スイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

手順 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

■ ハイブリッドシステムの停止方法

手順 1 車両を停止させる

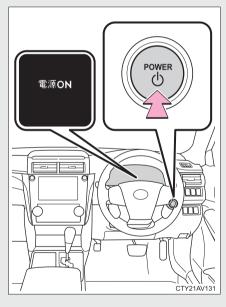
手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける。(→P. 153)

手順 4 “パワー”スイッチを押す。

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてマルチインフォメーションディスプレイの の表示が消灯していることを確認する。

■ “パワー”スイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります。)

OFF※

非常点滅灯が使用できます。

アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

※：シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したときは

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、“パワー”スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 マルチインフォメーションディスプレイに

が表示されていることを確認し、“パワー”スイッチを 1 回押す

手順 4 マルチインフォメーションディスプレイの

の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 58

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 54

■ご留意いただきたいこと

→P. 55

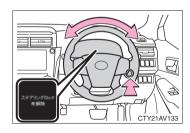
■ハイブリッドシステムが始動しないときは

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 100)

●シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しハイブリッドシステムを始動することができないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに“始動時は P レンジに入れて下さい”が表示されます。

■ステアリングロックについて

“パワー”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“パワー”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイに“ステアリングロック未解除”が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動･停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステムチェック”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 301

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 281

■“パワー”スイッチの操作について

- “パワー”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- “パワー”スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。“パワー”スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは

→P. 353

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、“パワー”スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上繰り返し押してください。
ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON の表示が消灯していない場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、“パワー”スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

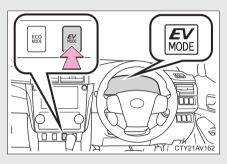
もしハイブリッドシステムが始動しにくかったりする場合は、ただちにハイブリッドシステムの点検を受けてください。

■“パワー”スイッチの操作について

“パワー”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→P. 25)

EV ドライブモードの ON･OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態(→P. 34)

●車速が 55 km/h 以上のとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントデフロスターを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P. 34）

●車速が 55 km/h をこえたとき
ガソリンエンジンの冷却水温が低いときは、30 km/h で自動解除されることがあります。

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2 km 程度です。車速約 55 km/h 以下での走行が可能です。但し、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

カムリハイブリッドは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

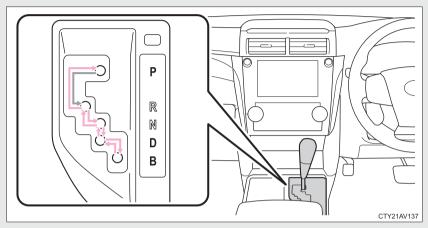
⚠ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

“パワー” スイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

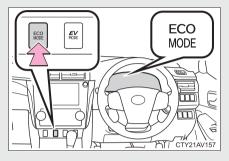
P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON・OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→P. 204）空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードを解除してください。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 328

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

警告

■すべりやすい路面では

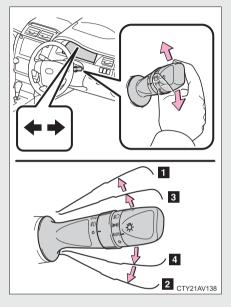
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

注意

■**駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

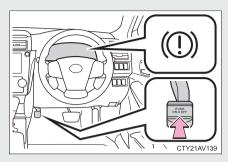
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h を超えたとき、警告ブザーが鳴ります。（→P. 303）

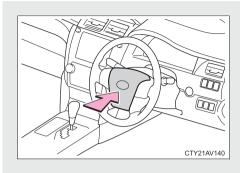
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 199）の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整した後は

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 82）

計器類

1 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 平均燃費計

リセットしてからの平均燃費を表示します。

5 瞬間燃費ゲージ

現在の瞬間燃費を表示します。

6 表示切りかえボタン

→P. 156

7 オドメーター / トリップメーターディスプレイ

→P. 156

8 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 165

9 水温警告灯 / メーター照度表示

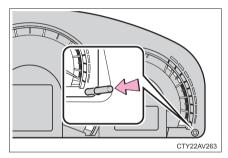
エンジン冷却水の温度とメーター照度調整画面が表示されます。

10 外気温計
→P. 229

11 シフトポジション表示
現在選択されているシフトポジションを表示します。
→P. 149

12 メーター照度調整ボタン
→P. 157

表示の切りかえボタン

CTY22AV263

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。

■ オドメーター

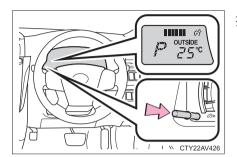
走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップＡ・トリップＢの２種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中に表示切りかえボタンを押し続けると、走行距離を０にもどします。

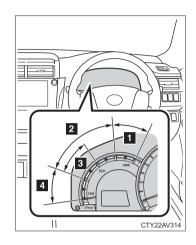
メーターパネル照度調整ボタン

ボタンを押すと、メーターパネル照明の明るさを調整できます。

押すと照度を調整できます。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

1 パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

2 エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

3 ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

4 チャージエリア
エネルギーが回生されている状態を示します。

●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※：ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■メーター照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度調整が一番明るい状態ではライトスイッチが ON になってもメーター照度は減光されません。

周囲が暗いときライトスイッチが ON になると、メーターの明るさが減光されます。周囲が明るいとき（昼間など）ライトスイッチを ON にしても、メーターの明るさは減光されません。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■燃料残量およびオドメーター／トリップメーターディスプレイ表示保持モード

“パワー”スイッチを OFF にした後も 10 分間は燃料残量とオドメーター／トリップメーターディスプレイ表示を保持しており、再び“パワー”スイッチを ON モードにすることなく燃料残量とオドメーター／トリップメーターの値を確認することが可能です。

メータ表示を確認するときはヘッドライトスイッチを [ライト記号] まで回して下さい。オドメーター／トリップメーターディスプレイ切替えボタンを押すことにより表示切替えもできます。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の一番右側の表示が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 338）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

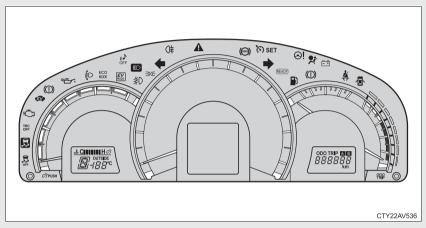
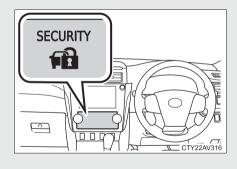
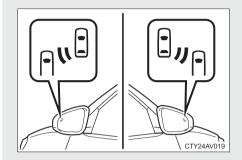
■ メーター

CTY22AV536

■ センターパネル

CTY22AV316

■ ドアミラー*

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 152）

尾灯表示灯（→P. 171）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 171）

フロントフォグライト表示灯（→P. 174）

リヤフォグライト表示灯*（→P. 174）

READY インジケーター（→P. 138）

EV インジケーター（→P. 26）

ECO MODE

ECO MODE 表示灯（→P. 150）

※ 1
車両接近通報 OFF 表示灯（→P. 25）

クルーズコントロール表示灯*（→P. 180）

SET 表示灯*（→P. 180）

※ 1
（点滅）

スリップ表示灯（→P. 185, 190）

※ 1

VSC OFF 表示灯（→P. 185）

※ 1

TRC OFF

TRC OFF 表示灯（→P. 185）

セキュリティ表示灯（→P. 100）

シフトポジション表示灯（→P. 149）

EV ドライブモード表示灯（→P. 146）

※ 2
BSM ドアミラー表示灯*（→P. 192）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

※１：作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※２：作動確認のため下記条件のときインジケーターが点灯します。

- ・ BSM メインスイッチが ON の状態で、“パワー”スイッチを ON モードにしたとき
- ・ “パワー”スイッチが ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 297)

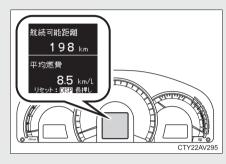
※ 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

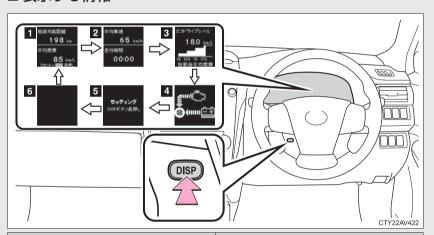
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関する様々な情報を表示します。

- トリップインフォメーション （→P. 165）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- 警告メッセージ （→P. 301）

  各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。

■ 表示する情報

<table>
<tr><th>トリップインフォメーション</th><th>表示の切りかえ</th></tr>
<tr><td>1 航続可能距離 / 平均燃費</td><td rowspan="6">DISP ボタンを押します。</td></tr>
<tr><td>2 平均車速 / 走行時間</td></tr>
<tr><td>3 エコドライブレベル</td></tr>
<tr><td>4 エネルギーモニター</td></tr>
<tr><td>5 カスタマイズ</td></tr>
<tr><td>6 表示 OFF</td></tr>
</table>

■ 航続可能距離／平均燃費

航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
  給油の際は“パワー”スイッチを OFF にしてください。万一、“パワー”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に“DISP”スイッチを長押しします。
  平均燃費計も一緒にリセットされ指針が 0 位置にもどります。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速／走行時間

ハイブリッドシステムを始動してからの平均車速と走行時間を表示します。

■ エコドライブレベル

ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費とエコドライブレベルを表示します。

マルチインフォメーションディスプレイに他の画面を選択している場合でも、ハイブリッドシステム停止後はエコドライブレベルを表示します。これは故障ではありません。

最高レベル到達時は“EXCELLENT!”が表示されます。

■ エネルギーモニター

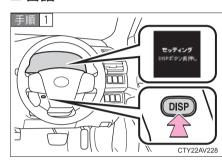
車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。(→P. 34)

■ カスタマイズ

言語やエコインジケーター（瞬間燃費ゲージ）と EV インジケーターの ON/OFF を変更することができます。(→P. 167)

カスタマイズ設定をする

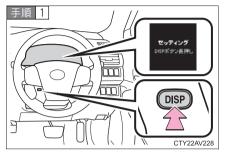
DISP スイッチを操作して、設定を変更することができます。安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にします。

■ 言語

停車中に DISP スイッチを押してセッティング画面を表示させ、DISP スイッチを長押しする

DISP スイッチを押して変更する項目を選択し、DISP スイッチを長押しする

DISP スイッチを押して設定したい項目を選択し、DISP スイッチを長押しする

設定を終了する場合は、“戻る”を選択し、DISP スイッチを長押しします。

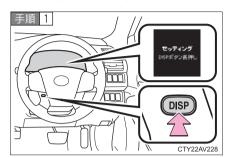
■ エコインジケーター（瞬間燃費ゲージ）

停車中に DISP スイッチを押してセッティング画面を表示させ、DISP スイッチを長押しする

DISP スイッチを押して変更する項目を選択し、DISP スイッチを長押しする

DISP スイッチを押して設定したい項目を選択し、DISP スイッチを長押しする

“エコインジケーター”を“OFF”に設定すると、瞬間燃費ゲージが表示されません。

設定を終了する場合は、“戻る”を選択し、DISP スイッチを長押しします。

■ EV インジケーター

停車中に DISP スイッチを押してセッティング画面を表示させ、DISP スイッチを長押しする

DISP スイッチを押して変更する項目を選択し、DISP スイッチを長押しする

DISP スイッチを押して設定したい項目を選択し、DISP スイッチを長押しする

設定を終了する場合は、“戻る”を選択し、DISP スイッチを長押しします。

知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- ●航続可能距離
- ●平均燃費
- ●平均車速
- ●走行時間
- ●エコドライブレベル

注意

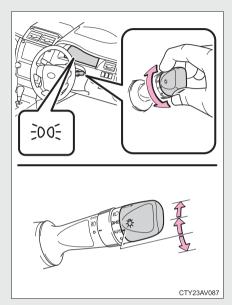
■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

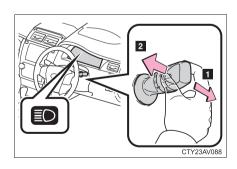
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

CTY23AV087

AUTO	ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯（“パワー”スイッチがON モードのとき）
(車幅灯マーク)	車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
(ヘッドライトマーク)	上記ライトとヘッドライトを点灯
O	OFF

ハイビームにする

CTY23AV088

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

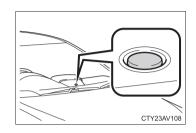
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

知識

■ライトセンサー

CTY23AV108

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

ドアまたはトランクが開いている場合、20 分後にすべてのライトが自動消灯します。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、“パワー”スイッチを OFF の状態でヘッドライトまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのライトが自動消灯します。

“パワー”スイッチを ON モードにすると、節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのライトが自動消灯します。

・ ライトスイッチを操作したとき
・ ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 353)

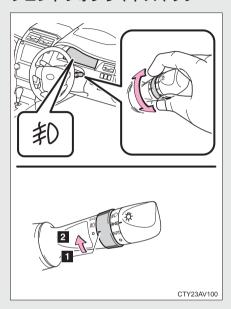
注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ

1 消灯する

2 点灯する

フロントリヤフォグライトスイッチ

1 消灯する

2 フロントフォグライトを点灯する

3 フロントリヤフォグライトを点灯する

手を離すと [フロントフォグライトマーク] の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：リヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
  視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

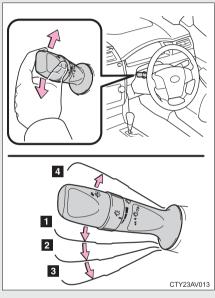
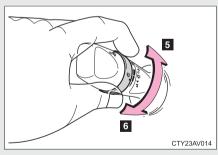
注意

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（増）
6 間欠ワイパーの作動頻度（減）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

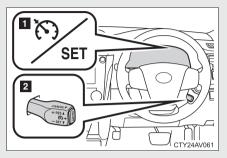
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

クルーズコントロール＊

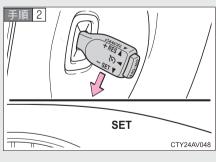
アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 クルーズコントロール表示灯

2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

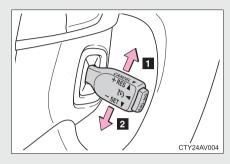
OFF にするには、再度スイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

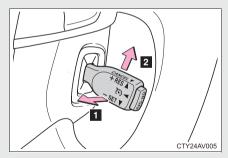
微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●速度は約 40 km/h 〜約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定速度にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40 km/h 以下になった

●S-VSC が作動した

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定速度以上になることがあります。
- 車両けん引時

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 190

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）*

→P. 192

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

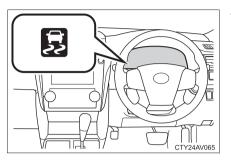
ABS・TRC・VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

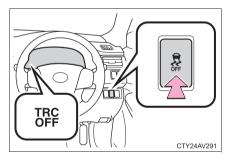
TRC・VSC・ABS が作動しているとき

CTY24AV065

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには

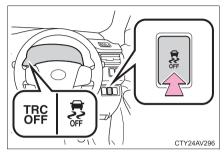
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

CTY24AV291

スイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC の作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、ハイブリッドシステム停止後に再始動すると、自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●非常点滅灯が点滅していないこと
- ●車速 55 km/h 以上
- ●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの解除条件

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●非常点滅灯を点滅させた
- ●ブレーキペダルを離した
- ●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

■スリップ表示灯が点灯したときは

TRC・VSC に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■VSC が作動しているときは

スリップ表示灯が点滅します。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

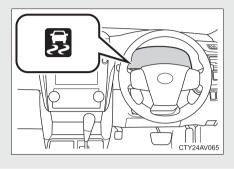
■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 350)
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面での発進時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

車両が完全に停止している状態で、さらにブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

・シフトレバーがＰ以外のとき
・パーキングブレーキがかかっていないとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約２秒間です。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度)。そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

警告

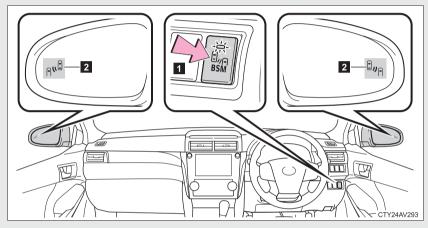
■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

BSM（ブラインドスポットモニター）＊

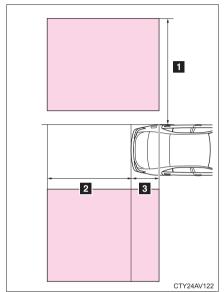
ブラインドスポットモニターは、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。

1 BSM メインスイッチ
押すごとに ON ／ OFF が切り替わり、ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

2 ドアミラーインジケーター
死角領域に車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。
また、方向指示レバーを操作した際に死角領域に車両がいたときは、ドアミラーインジケーターが点滅します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

死角領域となる、以下の範囲に入った車両を検知します。

1 車両側面から外側に約 3.5 m

車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません

2 車両後端から後方に約 3 m

3 車両後端から前方に約 1 m

知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16 km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、以下のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、以下のような車両や、車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など※

●対向車

●ガードレール、壁、標識、駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2 つ隣の車線を走行する他車※

※：状況によっては検知をすることがあります。

■ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

●以下のような状況では有効に検知しないおそれがあります。

- 大雨、霧、雪などの悪天候時
- 氷雪・泥等がリヤバンパーに付着したとき
- 水たまりなど濡れた路面を走行するとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り、下りが連続した坂道を走行しているとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車線の幅が広く、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- 自車線と隣車線の高さに差があるとき
- BSM メインスイッチを ON にした直後
- 車両後部に自転車キャリアなどを装着しているとき

●特に以下のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ガードレールや壁等との距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 後続車との車間距離が短いとき
- 車線の幅が狭く、2 つ隣の車線を走行する他車が検知範囲に入ったとき

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■システムに異常があるときは

以下のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。(→P. 302)

- ●センサーが故障しているとき
- ●センサーが汚れているとき
- ●極めて高温または低温の環境での使用
- ●電圧異常

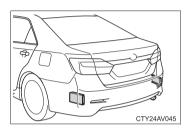
警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために以下のことをお守りください。

●センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく

●センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●センサーを分解しない

●センサーや、センサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない

●センサーや、センサー周辺のバンパーを改造しない

●センサーや、センサー周辺のバンパーを塗装しない

●本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

204Y51100100

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

  ・運転席足元
  ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  ・パッケージトレイ
  ・インストルメントパネル
  ・ダッシュボード

警告

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 249）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル・急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オートエアコンを使うには

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。（DUAL インジケーターは点灯しません。）

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは AUTO/OFF を右へ、下げるときは左へまわす

手順 3 A/C を押す

ボタンを押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 DUAL を押す

DUAL インジケーターが点灯します。

手順 3 設定温度を上げるときは AUTO/OFF または DUAL/A/C を右へ、下げるときは左へまわす

再び DUAL を押すと、連動モードになり、DUAL インジケーターが消灯します。

手順 4 A/C を押す

ボタンを押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。

お好みの設定で使うとき

手順 1 風量をかえるには、 の ＞（増）か ＜（減）を押す

送風を止めるときは OFF を押す

手順 2 設定温度をかえるには、温度を上げるときは または

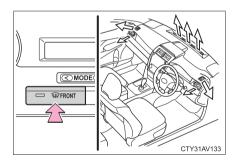
 を右へ、下げるときは左へまわす

連動モード使用時、 DUAL A/C をまわす、または DUAL を押すと独立モードに切りかわります。

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、 MODE の ＜ 側か ＞ 側を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

CTY31AV133

FRONT を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に切りかわる場合もあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

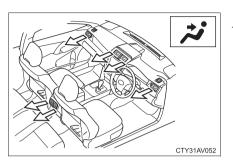
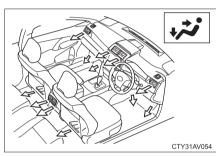
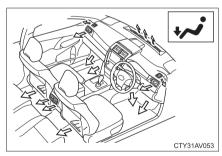
吹き出し口と送風について

CTY31AV052

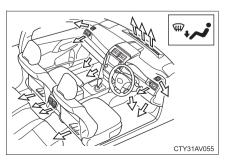
上半身に送風

CTY31AV054

上半身と足元に送風

CTY31AV053

足元に送風

暖房時は足元だけでなく、上半身の暖房効果を高めるため、上半身へも送風されます。

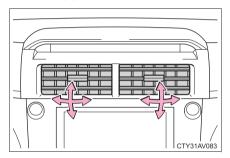
CTY31AV055

足元に送風・ガラスの曇りを取る

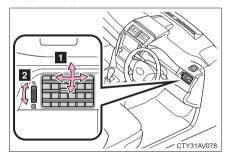
外気導入・内気循環を切りかえるには

[ボタン] を押す

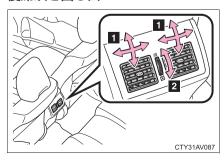
ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、[ボタン] の表示灯が点灯します。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

風向きの調整

左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

後席吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ●エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
- ●オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

- ●風量を調整する。
- ●エコドライブモードを解除する。

■カスタマイズ機能

- ●エコドライブモード時のエアコン制御を、通常走行モードと同じ制御に変更できます。(カスタマイズ一覧→ P. 353)
- ●エアコン制御を変更すると、変更前に比べてエコドライブモードの燃費性能は若干低下します。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- ●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- ●A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- ●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウィンドウガラスの曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー(→P. 212)でフロントウインドウガラスの曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」※1について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が 、 または のとき
・ 運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1：「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2：温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 284

■販売店で設定可能な機能

内外気切りかえや冷房・除湿機能の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 353)

⚠警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

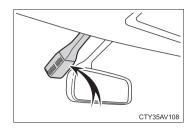
外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、[FRONT] を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■湿度センサーについて

CTY35AV108

フロントウィンドウガラスの曇り検知（→P. 209）のために、フロントウィンドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。
センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない

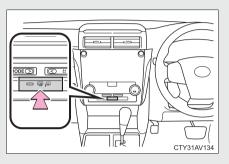
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

ON ／ OFF

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速など、条件により最大 60 分間作動することがあります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

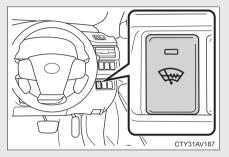
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用しないでください。補機バッテリーあがりの原因になります。

フロントワイパーデアイサー*

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ON ／ OFF

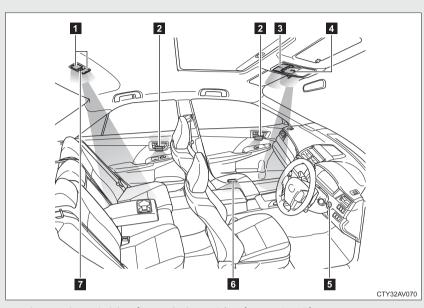
フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

警告

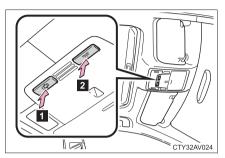
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

1 インテリア／リヤパーソナルライト（→P. 216）
2 インサイドドアハンドル照明
3 インテリア／フロントパーソナルライト（→P. 216）
4 シフト照明（テールライト点灯時）
5 “パワー”スイッチ照明
6 ドアカーテシ照明
7 リヤシートセンターアームレストライト（テールライト点灯時）

インテリアライト

CTY32AV024

1 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる

2 ライトの点灯・消灯を切りかえる

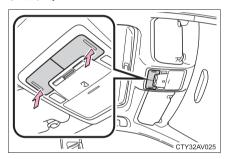
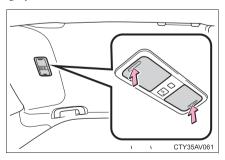
パーソナルライト

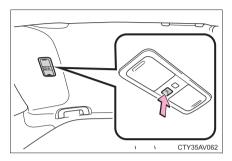
フロント

CTY32AV025

ライトを点灯・消灯する

リヤ

CTY35AV061

ライトを点灯・消灯する

リヤシートセンターアームレストライト

ライトを点灯・消灯する（テールライト点灯時）

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

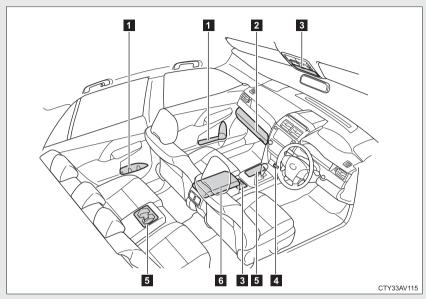
電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“パワー”スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

“パワー”スイッチを OFF にしたときに、インテリアライト・パーソナルライト・ドアカーテシ照明・インサイドドアハンドル照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 353）

収納装備一覧

1 ボトルホルダー／ドアポケット

2 グローブボックス

3 小物入れ

4 カードホルダー

5 カップホルダー

6 コンソールボックス

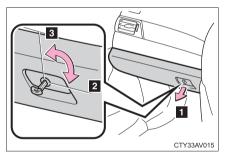
警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

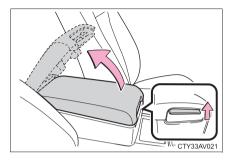
グローブボックスはレバーを引いて開けたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。

1 開ける
2 施錠
3 解錠

警告

■走行中の警告

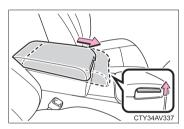
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

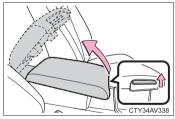
コンソールボックス

CTY33AV021

ノブを持ち上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

知識

■コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは

CTY34AV337

ノブを持ち上げてロック解除し、フタを前にスライドして位置を調整できます。

CTY34AV338

前端にスライドした位置からもフタを開けることができます。

警告

■**走行中の警告**

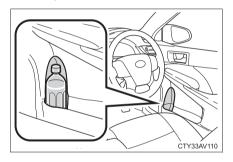
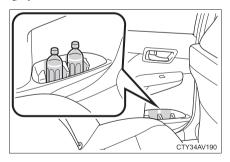
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

ボトルホルダー

フロント

CTY33AV110

リヤ

CTY34AV190

知識

■ボトルホルダーとして使用するときは

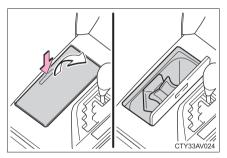
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

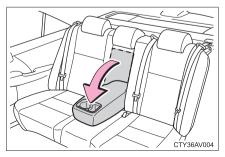
⚠注意

■収納してはいけないもの

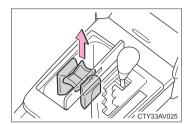
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー

フロント

カップホルダーのフタの左側を押して開ける

リヤ

アームレストを手前に倒す

知識

■フロントカップホルダーの仕切り部について

仕切り部を取りはずすことができます。

警告

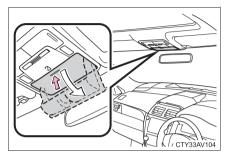
■収納してはいけないもの

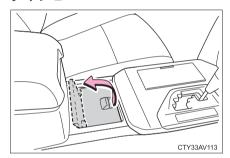
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

小物入れ

タイプ A

フタを押して開ける

タイプ B

ツマミを引いて開ける

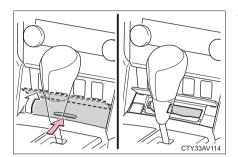
⚠ 警告

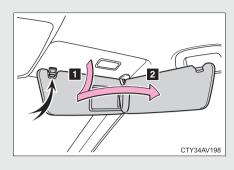
■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

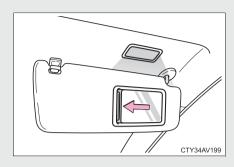
■収納してはいけないもの（タイプ A）

200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カードホルダー

フタの下側を押して開ける

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

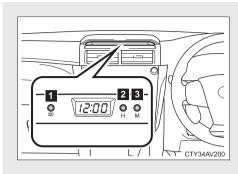
バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

知識

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

時計

1 “分”を 00 にする※

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

2 “時”を調整する

3 “分”を調整する

知識

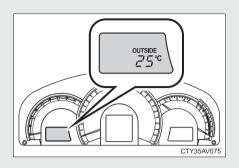
■時刻が表示されるとき

“パワー”スイッチがアクセサリーまたは ON モードのとき

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

時計は自動的に 1:00 にセットされます。

外気温度表示

-40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

知識

■外気温度が表示されるとき

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 25 km/h 以下）のとき

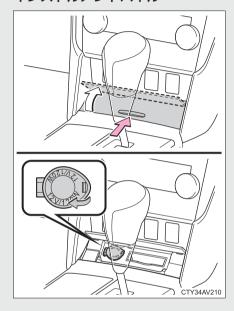
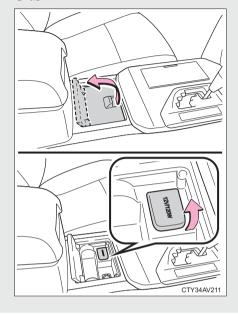
●外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

インストルメントパネル

小物入れ

知識

■使用条件

“パワー”スイッチがアクセサリーまたは ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12 V 10 A をこえないようにしてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター＊

1 ON

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

2 温度を調整する

ダイヤルを上にまわすほど高温になります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■使用しないときは

ダイヤルをいっぱいまで下にまわしてください。インジケーターが消灯します。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

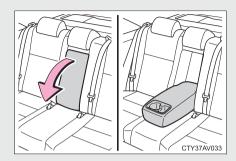
注意

■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

アームレスト

手前に倒して使用します。

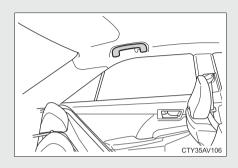
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

CTY35AV106

警告

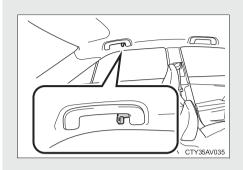
■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■破損を防ぐために

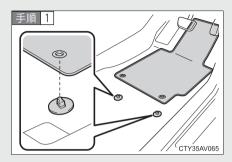
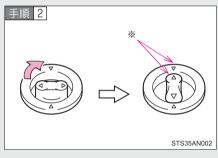
アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

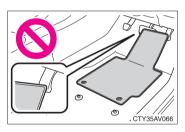
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

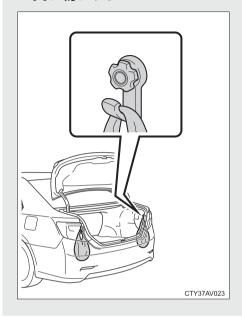
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- トヨタ純正品であっても､他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■**運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

トランク内装備

■ 買い物フック

⚠ 注意

■買い物フックの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください。）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から２ｍ以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P. 53）

■アルミホイール＊

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗料を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 86）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水を拭き取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター*について

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れを拭き取る

  ウール用の中性洗剤を約 5 % の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤を拭き取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤を拭き取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠警告

■車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P. 30)駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P. 103)電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

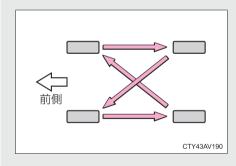
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

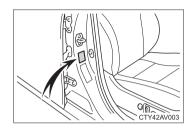
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

前輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2) ※

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2) ※

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

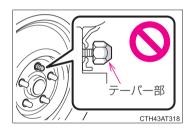
■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。

注意

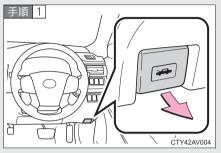
■**走行中に空気もれが起こったら**

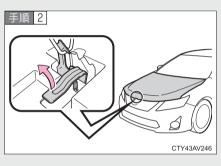
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

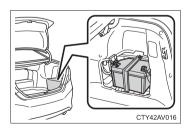
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量などの点検は不要です）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

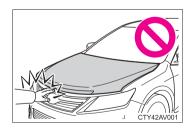
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

交換する際はカムリハイブリッド専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

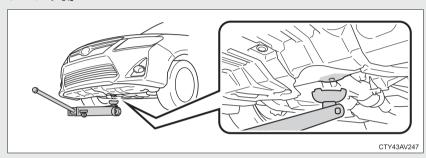
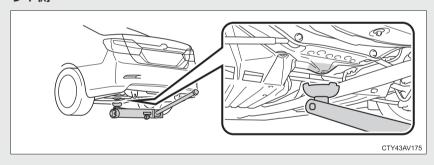
注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

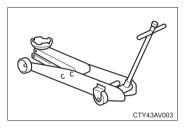
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側

リヤ側

警告

■車両を持ち上げるときには

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

CTY43AV003

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ちあげる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

■ 電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 351）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

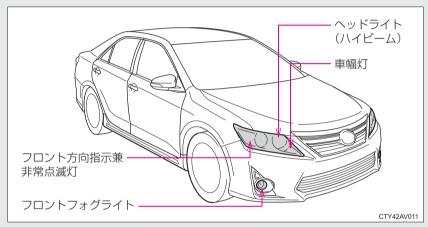
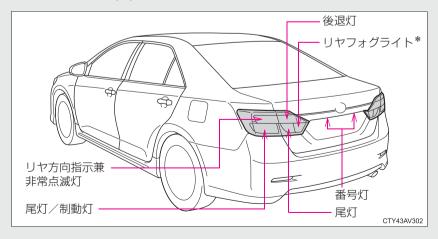
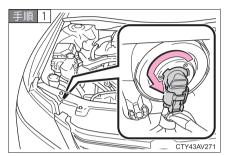
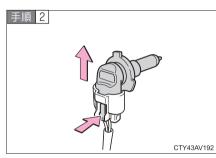
■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1

CTY43AV271

ソケットを取りはずす

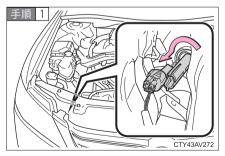
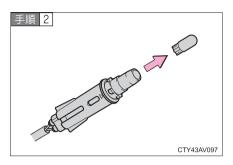
手順 2

CTY43AV192

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

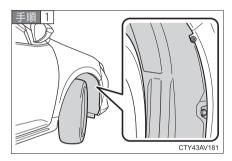
■ 車幅灯

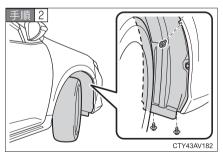
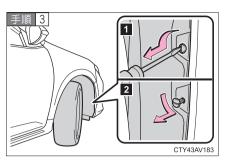
手順 1

CTY43AV272

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

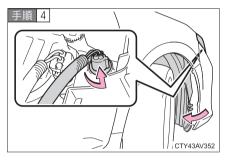
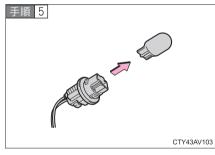
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

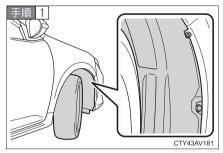
右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へハンドルをまわします。

ネジを取りはずす

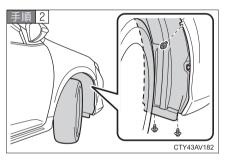
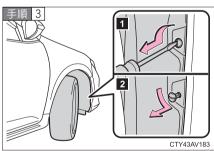
クリップを取りはずす

1 クリップをまわし、止まるまで引きます。

2 再びクリップをまわし、引き抜きます。

フェンダーライナーをめくり、ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

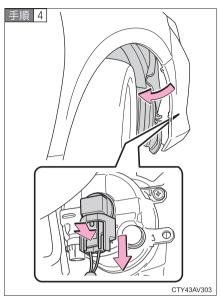
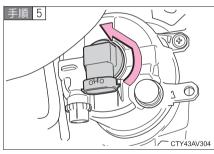
手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト

交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

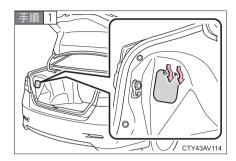
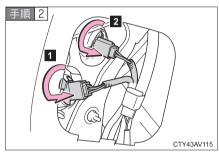
右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へハンドルをまわします。

ネジを取りはずす

クリップを取りはずす

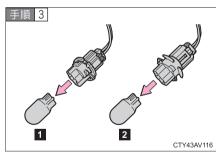
1 クリップをまわし、止まるまで引きます。

2 再びクリップをまわし、引き抜きます。

フェンダーライナーをめくり、コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 尾灯／制動灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯

トランクを開け、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

1 尾灯／制動灯

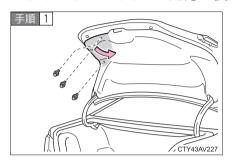
2 リア方向指示兼非常点滅灯

電球を取りはずす

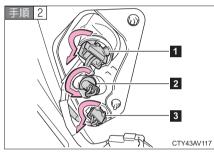
1 尾灯／制動灯

2 リア方向指示兼非常点滅灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグライト*・尾灯・後退灯

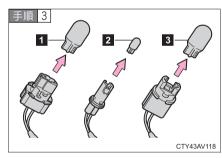
手順 1

トランクを開け、クリップをはずし内張りをめくる

手順 2

ソケットを取りはずす

1 リヤフォグライト

2 尾灯

3 後退灯

手順 3

電球を取りはずす

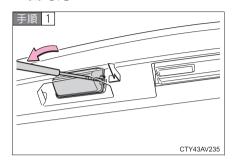
1 リヤフォグライト

2 尾灯

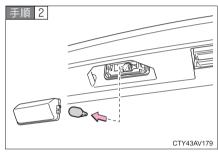
3 後退灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

レンズを取りはずす

小さいドライバーなどをレンズの穴にさしこみ図のようにこじると、片側がういて外れます。

傷が付くのを防ぐため、先端にビニールテープなどを巻いて保護してください。

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- ハイマウントストップライト

知識

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ライトについて

ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

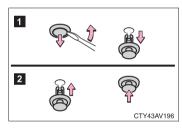
●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ライト内に水がたまっている

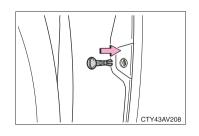
■電球（バルブ）を交換するときは

→P. 279

■クリップの取り付け、取りはずし方

トランクの内張りのクリップ

1 取りはずす

2 取り付ける

フェンダーライナーのクリップ

取り付ける

警告

■**電球を交換するときは**

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●ロービーム点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

⚠ 警告

■ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

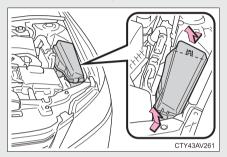
ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

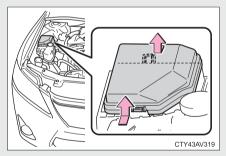
手順 1 “パワー”スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム（ヒューズボックス A）

CTY43AV261

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

エンジンルーム（ヒューズボックス B）

CTY43AV319

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

助手席足元

CTY42AV009

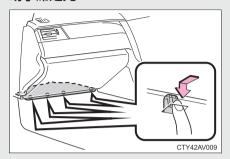
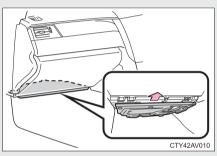
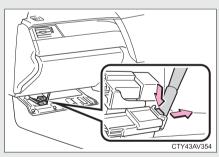
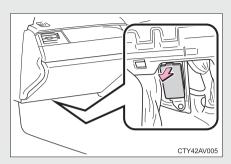
足元のカバーのツメ（4ヶ所）をはずす

CTY42AV010

カバーを手前に引いてはずす

CTY43AV354

コネクターを取りはずす

CTY42AV005

フタを取りはずす

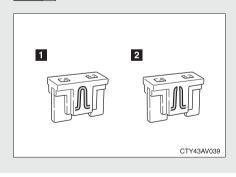
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する（→P. 273）

手順 4 ヒューズを引き抜く

CTY43AV041

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

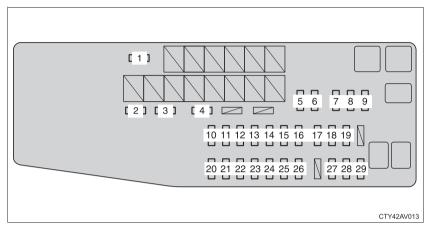
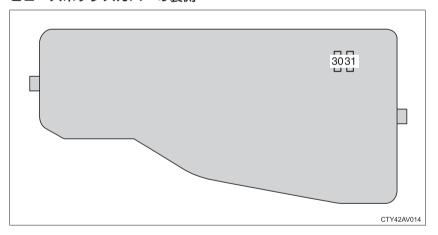
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

CTY43AV039

1 正常

2 ヒューズ切れ

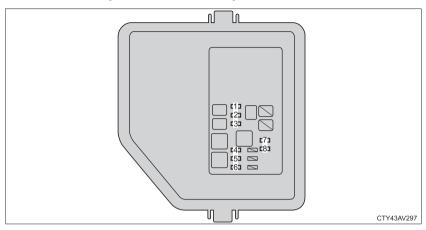
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

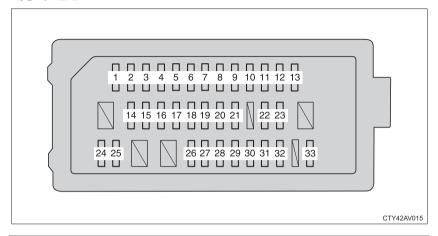
ヒューズの配置と負荷

エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ヒューズボックスカバーの裏側

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	METER-IG2	5 A	メーター
2	S-HORN	7.5 A	S-HORN
3	DEICER	15 A	フロントワイパーデアイサー
4	HORN	10 A	ホーン

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
5	EFI NO.2	15 A	EFI システム
6	EFI NO.3	7.5 A	EFI システム
7	INJ	7.5 A	EFI システム
8	ECU-IG2 NO.3	7.5 A	EFI システム、ステアリングロック、ハイブリッドシステム
9	IGN	15 A	始動システム
10	D/L-AM2	20 A	パワードアロックシステム
11	IG2-MAIN	25 A	IGN、INJ、METER-IG2、ECU-IG2 NO.3、A/B、ECU-IG2 NO.2、ECU-IG2 NO.1
12	DC/DC-S	7.5 A	ハイブリッドシステム
13	MAYDAY	5 A	—
14	TURN&HAZ	15 A	方向指示灯、非常点滅灯、メーター
15	STRG LOCK	10 A	ステアリングロック
16	AMP	15 A	—
17	H-LP LH-LO	20 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
18	H-LP RH-LO	20 A	右側ヘッドライト（ロービーム）
19	MNL H-LP LVL	7.5 A	—
20	EFI MAIN NO.1	30 A	EFI システム、EFI NO.2、EFI NO.3
21	SMART	5 A	スマートエントリー&スタートシステム
22	ETCS	10 A	EFI システム
23	ABS NO.2	7.5 A	電子制御ブレーキシステム
24	EFI NO.1	7.5 A	EFI システム
25	EFI-MAIN NO.2	20 A	A/F センサー
26	AM2	7.5 A	ハイブリッドシステム
27	RADIO-B	20 A	ナビゲーションシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
28	DOME	7.5 A	時計、バニティライト、室内灯、トランクライト
29	ECU-B NO.1	10 A	スマートエントリー＆スタートシステム、メーター、電動パワーステアリング、メインボデーECU
30	SPARE	25 A	予備ヒューズ
31	SPARE	30 A	予備ヒューズ

エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	PM IGCT	7.5 A	ハイブリッドシステム、トランスミッション
2	BATT VL SSR	10 A	ハイブリッドシステム
3	INV	7.5 A	ハイブリッドシステム
4	DC/DC　IGCT	10 A	ハイブリッドシステム
5	INV W/PMP RLY	7.5 A	ハイブリッドシステム
6	BATT FAN	7.5 A	バッテリー冷却ファン
7	INV W/PMP	15 A	ハイブリッドシステム
8	IGCT-MAIN	25 A	DC/DC IGCT、INV、BATT VL SSR、PM IGCT、INV W/PMP RLY、BATT FAN

助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-IG1 NO.2	10 A	エアコン、シフトロックシステム、シートヒーター、メインボデーECU、ナビゲーションシステム、ムーンルーフ
2	ECU-IG1 NO.1	10 A	電子制御ブレーキシステム、冷却ファン、制動灯、フロントワイパーデアイサー、車両接近通報装置、ステアリングセンサー、リヤウインドウデフォッガー、ミラーヒーター、後退灯、ナビゲーションシステム
3	PANEL	10 A	スイッチ照明、グローブボックスランプ、シフト照明、室内灯、ナビゲーションシステム
4	TAIL	15 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、リヤフォグライト
5	DOOR F/R	20 A	運転席側前席パワーウインドウ
6	DOOR R/R	20 A	運転席側後席パワーウインドウ
7	DOOR F/L	20 A	助手席側前席パワーウインドウ
8	DOOR R/L	20 A	助手席側後席パワーウインドウ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	H-LP LVL	7.5 A	ヘッドライトオートレベリングシステム
10	WASHER	10 A	ウォッシャー
11	A/C-IG1	7.5 A	エアコン、PTC ヒーター
12	WIPER	25 A	ワイパー
13	BKUP LP	7.5 A	—
14	ECU-IG1 NO.3	7.5 A	BSM
15	EPS-IG1	7.5 A	電動パワーステアリング
16	P/OUTLET RR	20 A	アクセサリーソケット
17	SFT LOCK-ACC	5 A	—
18	S/HTR&FAN F/R	10 A	運転席側シートヒーター
19	S/HTR&FAN F/L	10 A	助手席側シートヒーター
20	OBD	10 A	ダイアグノーシスコネクター
21	ECU-B NO.2	10 A	パワーウインドウ
22	AM1	7.5 A	—
23	STOP	7.5 A	尾灯、ハイブリッドシステム、電子制御ブレーキシステム、ハイマウントストップライト、シフトロックシステム、車両接近通報装置
24	A/C-B	7.5 A	エアコン
25	S/ROOF	10 A	ムーンルーフ
26	D/L-AM1	20 A	メインボデー ECU、パワードアロックシステム、トランクオープナー
27	TI&TE	20 A	—
28	A/B	10 A	SRS エアバッグシステム
29	ECU-IG2 NO.1	7.5 A	ハイブリッドシステム
30	ECU-IG2 NO.2	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム、電子制御ブレーキシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
31	CIG&P/OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
32	ECU-ACC	7.5 A	時計、電動格納式ドアミラー、メインボデー ECU、ナビゲーションシステム
33	S/HTR RR	20 A	—

知識

■ヒューズを交換したあと

- ●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 258)
- ●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- ●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- ●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

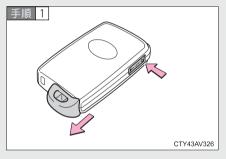
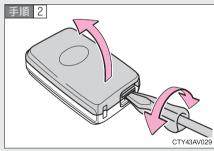
ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

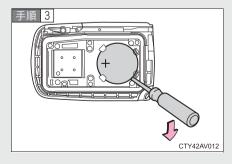
電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

■ 電池交換のしかた

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

小さいマイナスドライバーを使い消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋ 極を上にして取り付けます。

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

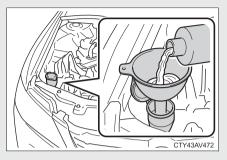
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

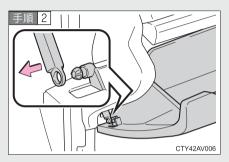
必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

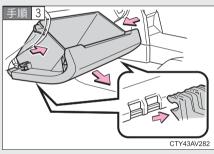
エアコンフィルター

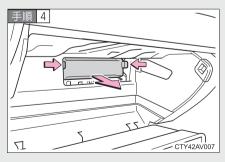
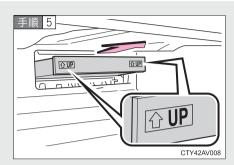
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “パワー”スイッチを OFF にする。

CTY42AV006

手順 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

CTY43AV282

手順 3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

CTY42AV007

手順 4 フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

20000 km [10000 km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら

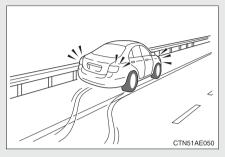
5

5-1. まず初めに

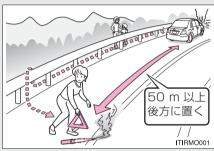
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 289）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50 m以上後方に発炎筒（→P. 290）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

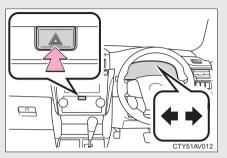
■停止表示板・停止表示灯について

ITIRMO004

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯

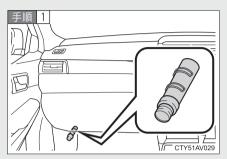
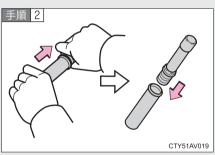
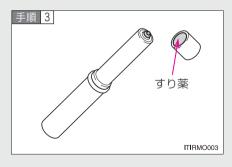
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

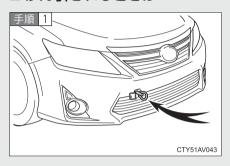
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

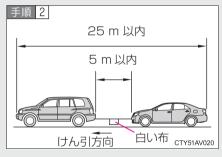
けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者に依頼ください。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

けん引フック取り付け穴は運転席側にあります。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

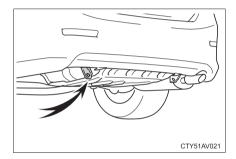
けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

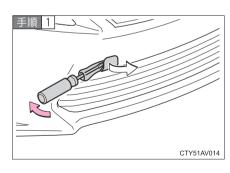
● READY インジケーターが点灯しているのに車が動かない

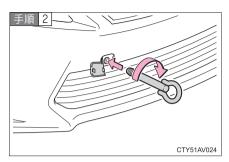
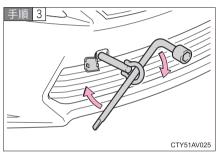
● 異常な音がする

緊急時のけん引

CTY51AV021

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付けかた

CTY51AV014

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 315

⚠警告

■車両を運搬するときは

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
車輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては火災のおそれがあり危険です。

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●"パワー" スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■車の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(赤色)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ **ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→P. 303

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

警告灯	警告灯名・警告内容
（点滅）	**高水温警告灯（水温計の一番右側の表示が点滅）** エンジン冷却水温の異常（→P. 338）

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS の異常
（点灯）	**スリップ表示灯** ・S-VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常
	ヘッドライトオートレベリング警告灯 自動光軸調整システムの異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 9.8 L 以下になった	燃料を補給する
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※2 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 301

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
→P. 303

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

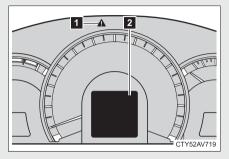
繰り返しブレーキペダルを踏むとブレーキ警告灯（赤色）が点灯し、警告ブザーがなることがあります。これは故障ではありません。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ハイブリッド システムチェック	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
スマートエントリー & スタートシステム チェック （点滅）	**・スマートエントリー & スタートシステムの異常** **・ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります
BSM システムチェック	**BSM（ブラインドスポットモニター）＊の異常**
クルーズ システムチェック	**クルーズコントロールシステム＊の異常**

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	各ドアを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ボンネット オープン	**ボンネットが確実に閉まっていない** ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	ボンネットを閉める
トランク オープン	**トランクが確実に閉まっていない** トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	トランクを閉める
ムーンルーフが 開いています (点滅)	**ムーンルーフ＊が確実に閉まっていない状態で“パワー”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを 解除して下さい	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ウォッシャー液不足	**ウォッシャー液が残りわずか**	ウォッシャー液を補充する
ハイブリッドシステム過熱	**ハイブリッドシステムの過熱** 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	車両を停車して点検する（→P. 338）
BSM 現在使用できません	**BSM（ブラインドスポットモニター）＊のセンサー周辺のバンパーの汚れ、氷などの付着**	汚れおよび氷などを取り除く
駆動用電池 残量低下 Nレンジ以外で 充電します （点滅）	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。	シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P にする

＊：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
駆動用電池 保護モード Pレンジで 再始動して下さい (点滅)	**長時間シフトレバーが N になっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。	車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する
駐車時はPレンジに 入れて下さい (点滅)	**シフトレバーが P 以外で、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。	シフトレバーを P にする
Nレンジです (点滅)	**シフトレバーが N のとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。	アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D・B または R にする
EVモードに現在 切替できません	**EV ドライブモードに切りかえできない状況にいる**※ 警告ブザーが鳴ります。 EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中 / 電池充電不足 /EV 速度域超過 / アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。	EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する

警告メッセージ	警告内容	対処方法
EVモードが 解除されました （3 回点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された**※ 警告ブザーが鳴ります。 EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足 /EV 速度域超過 / アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。	しばらく走行する

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 146 を参照してください。

ただちに処置してください。

ハイブリッドシステム始動操作を行ったとき、次の警告が表示された場合は、警告メッセージの表示状態に従ってそれぞれ処置してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
補機バッテリー (始動用)充電不足 取扱書確認下さい	**補機バッテリーが充電不足**	**数秒後※に表示が消えたときは** 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 **表示が消えないときは** 「補機バッテリーがあがったときは」(→P. 333)の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

⚠ 注意

■「補機バッテリー(始動用)充電不足」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが見つかりません (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する
1 回	3 回	キーが見つかりません (点滅)	“パワー”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーが P の状態で“パワー”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー”スイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	連続音	キーが見つかりません 電源を OFFして下さい （交互に表示） （点滅）	“パワー” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
9 回	なし	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに 入れて下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、“パワー” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP以外の状態で“パワー”スイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる
1回	連続音	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1回	連続音	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを 踏みながら キーで パワースイッチに 触れて下さい （点滅）	・メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・“パワー”スイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“パワー”スイッチにふれる
1 回	なし	始動時はPレンジに 入れて下さい （点滅）	シフトレバーがNの状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている	シフトレバーを P に入れてからハイブリッドシステムを始動させる
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFF しました	自動電源 OFF 機能が作動した	次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する（→P. 281）
1 回	なし	始動時はブレーキを 踏みながら パワースイッチを 押して下さい （点滅）	“パワー”スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずに“パワー”スイッチをアクセサリーモードに 2 回した	ブレーキを踏んで“パワー”スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で（→P. 330）“パワー”スイッチに電子キーをふれた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に“パワー”スイッチを押す
1 回	なし	ステアリングロック 未解除 （点滅）	“パワー”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら“パワー”スイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	Pレンジに入れて下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で“パワー”スイッチを OFF にした	シフトレバーを P にする
1 回	なし	電源を OFFして下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外で“パワー”スイッチを OFF にしたあとシフトレバーを P に移動した	“パワー”スイッチを OFF にする

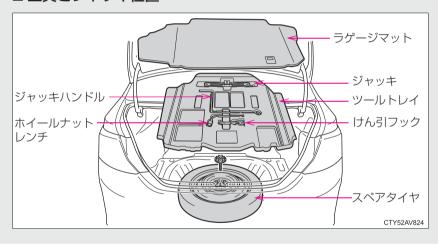
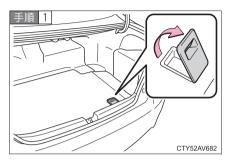
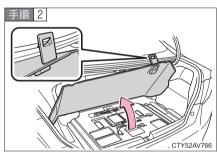
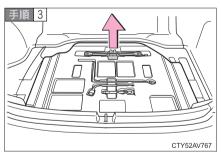
パンクしたときは

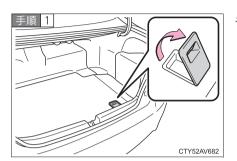
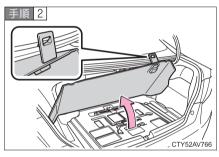
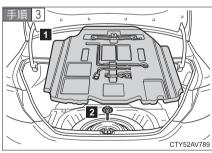
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

（タイヤについての詳しい説明は P. 249 を参照ください）

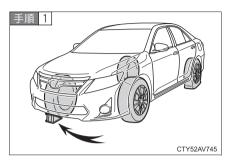
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

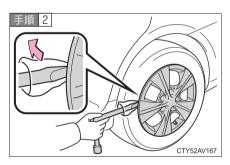
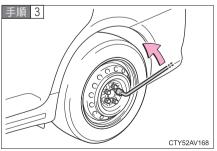
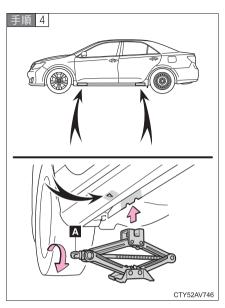
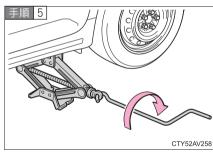
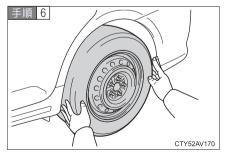
■ 工具とジャッキ位置

ジャッキの取り出し方

ラゲージマットを持ち上げる

フックを使ってラゲージマットを固定する

ジャッキを取りだす。

応急用タイヤの取り出し方

ラゲージマットを持ち上げる

フックを使ってラゲージマットを固定する

1 ツールトレイを取り出す

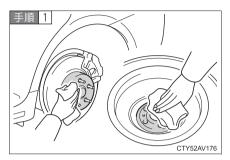
2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

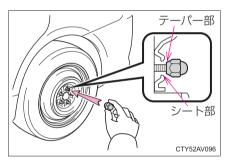
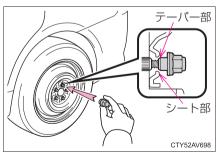
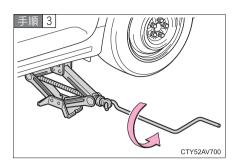
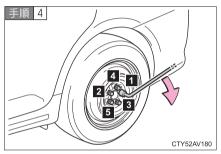
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす。
（スチールホイールのみ）

ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

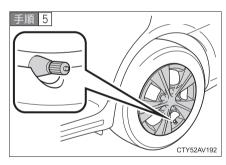
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールからスチールホイールまたは応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ スチールホイールのみ(応急用タイヤに取り付けることはできません)

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P. 350）

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

警告

■**応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- EPS
- クルーズコントロール*
- ナビゲーションシステム*
- バックガイドモニター*

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。（→P. 251）

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P. 138）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P. 330）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 100）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。（→P. 302）
- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P. 270）

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 333）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 333）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “パワー” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで “パワー” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

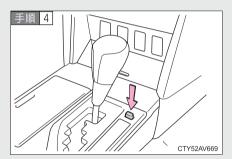
上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “パワー”スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

シフトロック解除ボタンを押す

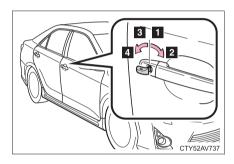
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 44)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P. 54)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

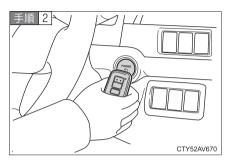
ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー (→P. 44) を使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)

1. 全ドア施錠
2. ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（まわし続ける）※
3. 全ドア解錠
4. ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（まわし続ける）※

※：トヨタ販売店での設定が必要です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキをしっかり踏む

手順 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、“パワー”スイッチにふれる

CTY52AV670

ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

手順 4 “パワー”スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にして“パワー”スイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 281)

■“パワー”スイッチのモード切りかえについて

ハイブリッドシステム始動方法の 手順 3 で、ブレーキペダルから足を離して“パワー”スイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 139)

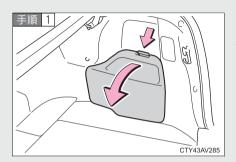
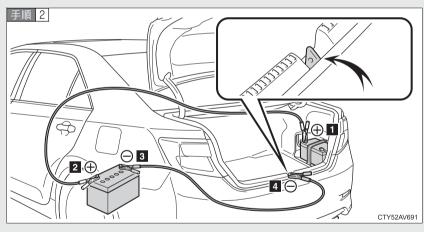
■電子キーが正常に働かない場合について

●カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムがキャンセルになっていないことを確認してください。
スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルになっている場合には、通常にしてください。
(カスタマイズ一覧 →P. 353)

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。(→P. 53)

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

トランクを開け、バッテリーカバーをはずす。

補機バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 4 “パワー”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“パワー”スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

手順 6 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

手順 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

“パワー”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■補機バッテリーがあがったときの留意事項

●補機バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠･施錠を実施してください。

●補機バッテリーがあがったあとの、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてからおこなってください。
補機バッテリーあがり前の“パワー”スイッチ状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーについて

→P. 253

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

⚠ 警告

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●補機バッテリーの支柱･ターミナル･その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→P. 254

オーバーヒートしたときは

次のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

● 水温計の一番右側の表示が点滅：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。

●「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：電気モーター、またはパワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

手順にしたがってご対処ください。

対処方法

■ 水温計の一番右側の表示が点滅したとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：
ハイブリッドシステムを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する

蒸気が出ていない場合：
READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：
水温計の一番右側の表示が点滅するのを止めて、通常の表示にもどってからハイブリッドシステムを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する

手順 4 CTY52AV687

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水もれを点検する

手順 5 CTY52AV688

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

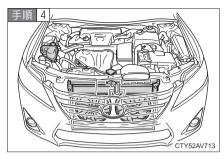
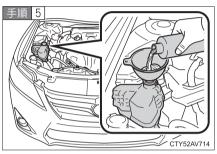
■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 READY　インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：
「ハイブリッドシステム過熱」が消えてからハイブリッドシステムを停止する
しばらく待っても消えない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する。

ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水もれを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

オーバーヒートのとき、お車に次のような症状が現れます。

- ●エンジンルームから蒸気が出る
- ●マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたとき

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON と READY インジケーターが消灯していることを確認してください。

●ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止する

手順 2 前輪周辺の土や雪を取り除く

手順 3 前輪の下に木や石などをあてがう

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。
(→P. 185)

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N にする。

シフトレバーが N になった場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する。

シフトレバーが N にならない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

“パワー”スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを切るときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	65

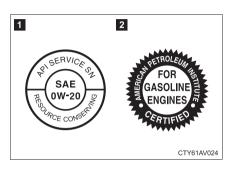
エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC SAE 10W-30	2AR-FXE	4.0	4.4

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

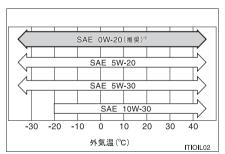
※2 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）:

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	インバーター
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30 %　　-12 ℃ 濃度 50 %　　-35 ℃	7.2	3.2

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] （参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.7

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※1	95

※1 ハイブリッドシステムが作動している状態で、500 N (51 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N (31 kgf) のときのノッチ※2 数	7 ～ 10

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.8

タイヤ

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm2)
標準タイヤ	215/60R16 95H	16 × 6 1/2JJ	240 (2.4)
	215/55R17 93V	17 × 7J	240 (2.4)
応急用タイヤ	T155/70D17 110M	17 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3) ロービーム（ディスチャージヘッドライト）	 60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11)	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21/5
	尾灯	5
	後退灯	16
	リヤフォグライト	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	バニティライト	8
	フロントインテリア／パーソナルライト	5
	リヤインテリア／パーソナルライト	8
	リヤシートセンターアームレストライト	LED ※
	ドアカーテシ照明	5
	トランクライト	3.8
	シフト照明	LED ※
	インサイドドアハンドル照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※

※ LEDは、Light Emitting Diodes （発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
AVV50	2AR-FXE （2.5 L ガソリン）	2JM	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、ナビゲーションシステム*の画面操作により設定を変更することができる機能もあります。※

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

※ ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

車両カスタマイズ設定一覧

1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
2 トヨタ販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2
ドアロック (→P. 62，330)	キーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
	車速感応オートロック	あり	なし	○	○
	シフト連動オートロック	なし	あり	○	○
	シフト連動オートアンロック	あり	なし	○	○
	運転席ドア連動オートアンロック	なし	あり	○	○

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 47, 60)	作動の合図(非常点滅灯)	あり	なし	○	○
	作動の合図(ブザー)	あり	なし	―	○
	作動の合図(ブザー音量調整)	レベル 5	OFF ~ レベル 7	○	○
	半ドア警告ブザー	あり	なし	―	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	○
			120 秒		
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 47)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	○
	連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	―	○
	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	○
ワイヤレスドアロック (→P. 60)	ワイヤレス機能	あり	なし	―	○
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
	トランク解錠時の操作	長押(短)	短押し	―	○
			2 回押し		
			長押(長)		
			禁止		
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 171)	ライトセンサーの感度調整	標準(0)	-2 ~ 2	○	○
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	―	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2
イルミネーション (→P. 215)	消灯までの時間	15 秒	OFF 7.5 秒 30 秒	○	○
	“パワー”スイッチ OFF 後の作動	あり	なし	ー	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	ー	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	ー	○
	インサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	ー	○
エアコン (→P. 204)	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	○
	エコドライブモード時のエアコン制御	する	しない	ー	○
パワーウインドウ、 ムーンルーフ* (→P. 88, 91)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	ー	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	ー	○
	ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	ー	○
ムーンルーフ* (→P. 91)	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	ー	○
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	ー	○

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
BSM	ブラインドスポットモニター
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
EV	エレクトリックビークル
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティ コントロール
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

え

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

き

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

つ

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

て

と

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

症状別さくいん

CTYPIAV452

■警告灯一覧

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

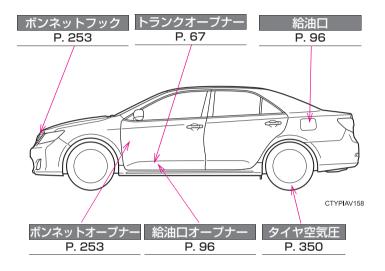
- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 297）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 301）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 51，301
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	
	ワイヤレスリモコンでドアを施錠したとき	P. 60
走行中	シフトポジションをＲにしたとき	P. 150
	ブレーキを踏んだとき	P. 132

ハイブリッドさくいん

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量（参考値）	65 L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 346
タイヤが冷えているときの空気圧	16 インチタイヤ： 240 (2.4) kPa (kg/cm^2) 17 インチタイヤ： 240 (2.4) kPa (kg/cm^2) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.0 L オイルとフィルター交換時：4.4 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・SN 0W-20 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 0W-20) ・SN 5W-20 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 5W-20) ・SN 5W-30 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 5W-30) ・SN 10W-30 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 10W-30) ・SM 5W-30 (API SM、EC、SAE 5W-30) ・SM 10W-30 (API SM、EC、SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ホ-12

M 33A54
01999ー33A54
NAC−2013年２月７日
2012年９月３日 初版
2013年２月14日 ３版
カムリハイブリッド